

# Book Review



## 歯の移植・再植 これから始めるために

下地 勲 編著



Reviewer

黒田昌彦 Masahiko Kuroda  
(東京都・黒田歯科医院)

A4判, 270頁  
オールカラー  
定価(18,000円+税)  
医歯薬出版刊



素晴らしい本が出た。「歯の移植・再植」の第一人者による書籍である。

1995年の『入門・自家歯牙移植』(永末書店)から始まり、2009年の『歯根膜による再生治療』(医歯薬出版)まで、自家歯牙移植に関する数多くの論文・書籍を出版されてきた著者の集大成がこの書である。

「これから始めるために」という親切なサブタイトルがついているとおり、臨床の実際に重点を置いた内容で、取り組みやすい症例の選択からステップアップできるように組み立てられている。すべての症例に術後経過が示され、さらに問題点やフォローが解説されていて、読者の不安や心配に答える内容となっている。

「自家歯牙移植歯は果たして長期に生存できるものなのだろうか?」という疑問は一般に多く聞かれるところである。

私は著者と同じスタディグループ(火曜会)に所属していた35年以上前に、著者の自家歯牙移植の症例報告を聞いている。その時から素晴らしい

方法だと教えられた。私たちのスタディグループ(救歯会)でも、712名の自家歯牙移植歯の生存率を調査し、臨床経験のバラツキがあり、開業地にも地域差のある40名の会員の自家歯牙移植歯の生存率は、平均14.5年であった(歯界展望. 119(3)~119(4), 2012)。これほど自家歯牙移植歯が長持ちできるものなのかと、データをまとめて皆が驚いた。

自家歯牙移植はもっともっと臨床で応用されるべきだと再認識させられた。なのに、インプラントほど広まらないのはなぜか? ひとえにその術式の難しさであり、インプラントに比べ、術式がシステマティックに組み立てられていないことであろう。

インプラントでCTスキャンが必須であるならば、自家歯牙移植でもCTスキャンを事前の必須診査とすれば、一段階診断が容易となる。そのように、著者の40年以上にもわたる自家歯牙移植の経験から、これから始めるためのノウハウがぎっしりと詰まっている書籍となっている。

脱稿後2年以上、推敲を重ね、予定より大幅に発行が遅れたのは、読者に有益な内容となっているか、また全体が理解しやすい内容になっているか、の検討に多くの時間をかけたとの著者の言。そのとおりで、20年を超す多くの長期症例を厳選し72症例を掲載し、基礎理論は最小限に絞り、臨床の実際に重点を置き、術式、術後管理をわかりやすく視覚的、具体的に提示してある。読者が読みたい症例を容易に探すことができるように、症例ごとにタイトルが付いている。解説にはX線写真やカットの挿絵、グラフや表などを駆使して、かゆいところに手が届くようなわかりやすさだ。

海外の論文では目にする事のない欠損歯列への自家歯牙移植症例が多く提示されており、インプラントと自家歯牙移植の適応の棲み分けや共存も提示。

これから始める方に加え、すでに自家歯牙移植に取り組んでいる方にも、推薦したい。天然歯の保存にこだわる術者にとっては必読の書と言える。